

えひめ

2007

No.23

健康だより



お供馬の走り込み(今治市菊間町)

約500年前より家内安全、五穀豊穡を祈願する菊間祭りで行われている伝統行事。少年が「菓子(のりこ)」となり加茂神社の馬場を一気に駆け抜ける勇壮な姿を一目見ようと毎年大勢の見物客が訪れます。

CONTENTS

精密検査を受けましょう 1~4
- 見つかる可能性のある「がん」を放置しないために -

結核フォーラムinえひめ他 5

わたしの街から 6
~ 今治市菊間町 ~



財団
法人

愛媛県総合保健協会

精密検査を受けましょう

— 見つかる可能性のある「がん」を放置しないために —

財団法人愛媛県総合保健協会 参与 川上 寿昭



「がん」に罹患される方や亡くなられる方は、人口の高齢化、環境汚染、食品の発がん物質による汚染、さらには食生活の変化などによって増えつづけ、平成17年度の死亡者数は32万5千人を超えて全死亡者の1/3を占めています。この25年間でのがんによる死亡者数は、2倍以上となっています。

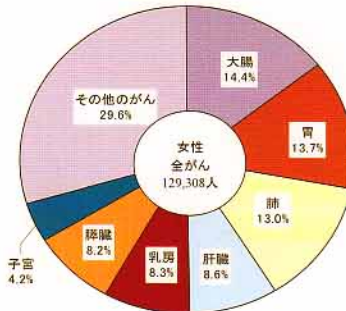
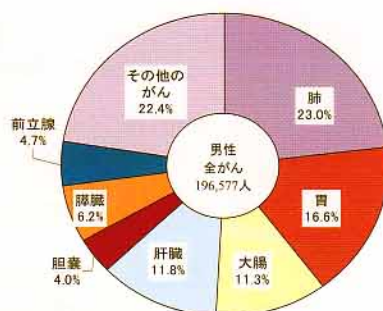
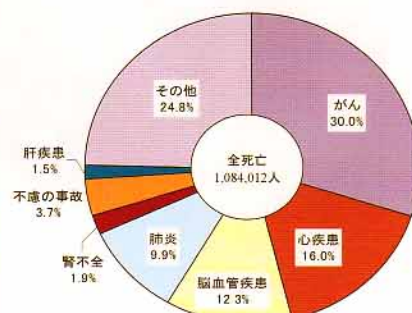


部位別死亡原因では、男性は「肺がん」が23.0%と第1位を占め、次いで「胃がん」の16.6%、「大腸がん」が11.3%となっています。女性では「大腸がん」が14.4%と第1位で、次いで「胃がん」が13.7%、「肺がん」が13.0%と続き、罹患率・死亡者数とも増加傾向にある「乳がん」は8.3%で第5位となっています。

平成17年度 死亡数およびがん死亡者・率

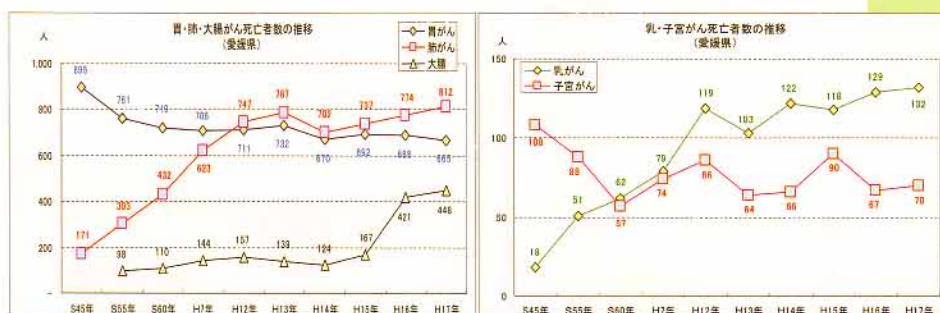
	死亡者総数	がん死亡数	がん死亡率
男性	585,118	196,577	33.6
女性	498,894	129,308	25.9
計	1,084,012	325,885	30.1

厚生労働省 人口動態統計(概数)



愛媛県においても「がん」で亡くなる方は、平成13年に年間4,000人を超え、平成17年度には4,233人の犠牲者が出ています。部位別死亡者数では、肺がん・大腸がんおよび乳がんが増加傾向にあり、中でも大腸がんについては平成15年度までが150人前後であったものが、平成16・17年度には400人を超す犠牲者を出しています。

「がん」による人口10万対死亡率の全国比較においても愛媛県は常に10ポイント以上も上回ってきています。



人口10万対死亡率の年次推移(昭和45年～平成17年) 厚生労働省 人口動態統計より



このような状況の中で、診断技術と治療方法の進歩により一部の「がん」については早期発見・早期治療ができるようになってきています。がん検診は、こうした医療技術にもとづき「がん死亡率」を減少させることができる確実な方法となってきました。

がん検診の目的は、がんを早期に発見し適切な治療を行うことによって死亡率を減少させることにあります。単に多くの「がん」を診つけることが「がん検診」の目的ではありません。症状の出ないうちに「がん」を発見し、治すことが大切です。しかし、がん検診で「がん」を100%診つけることはできません。「がん」の発症する部位や進行の度合いによっては発見できないものもあります。がん検診を正しく受けるためには、先ず「がん検診を正しく知る」ことが大切です。

がん検診の有効性については、平成12年度に厚生労働省のがん検診の適正化に関する研究事業において「新たながん検診手法の有効性の評価」として報告書が出されています。

がん検診の有効性に関する評価

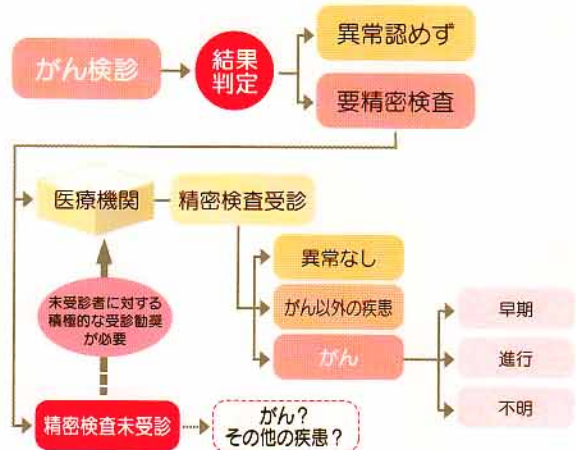
部 位	検 査 法	有効性の評価	対象年齢	受診間隔
肺	間接X線＋喀痰細胞診(高危険群)	○ 効果あり(日本) × 効果なし(欧米)	40才以上	毎年
	CR＋喀痰検査			
	らせんCT＋喀痰細胞診	△ 効果未証明		
胃	胃X線検査	○ 効果あり	40才以上	毎年
	血清ペプシノゲン検査	△ 効果未証明		
	ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	× 効果なし		
乳房	視触診＋マンモグラフィ(2方向)	◎ 効果あり(50歳以上) ○ 効果あり(40～49才)	40才以上	隔年
	視触診＋超音波検査	△ 効果未証明		
子宮	頸部 擦過細胞診	◎ 効果あり	20才以上	隔年
	ヒトパピローマウイルス感染検査	△ 効果未証明		
	体部 体部細胞診	△ 効果未証明		
	超音波断層法(経膈法)	△ 効果未証明		
大腸	便潜血検査(二日法)	◎ 効果あり	40才以上	毎年
前立腺	前立腺特異抗原(PSA)	△ 効果未証明		
	直腸診	× 効果なし		

* 効果…検診による死亡率減少に対する効果

◎…十分な効果、○…相応な効果、×…効果なし、△…現時点で適切な根拠がない

当協会においても、この検診手法にもとづいて胃・肺・大腸・乳房・子宮および前立腺がん検診を行い、死亡率の減少につながる「がん」の早期発見に努めています。

健診(検診)項目

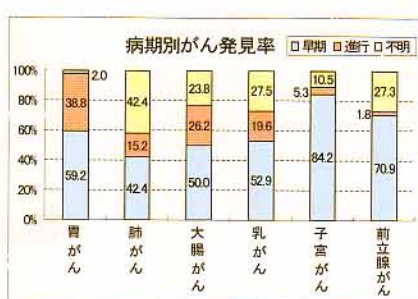
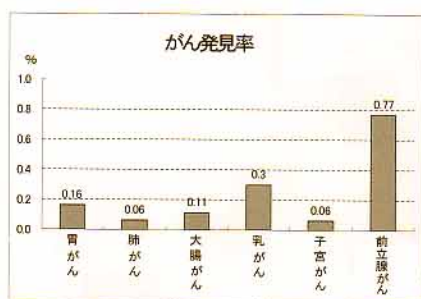
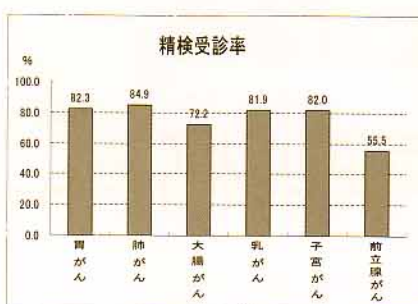
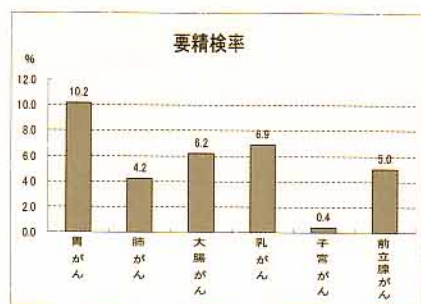


がん検診の目的であるがんを早期に発見し適切な治療を行うことによって死亡率を減少させるために大切なことは、初回受診者も含めて受診率を向上させることは勿論のこと、**要精密検査未受診者の精密検査受診を100%にする**ことにあります。

平成17年度に実施した「住民がん検診」の受診者数・精密検査受診数・率・精密検査結果(がん発見数・率・病期別発見がん数)は次のとおりです。

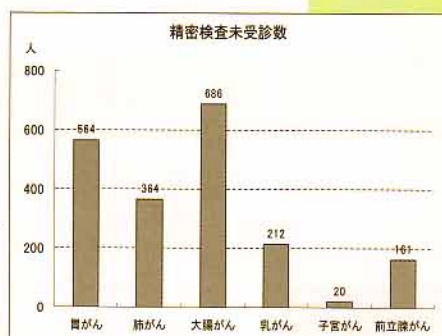
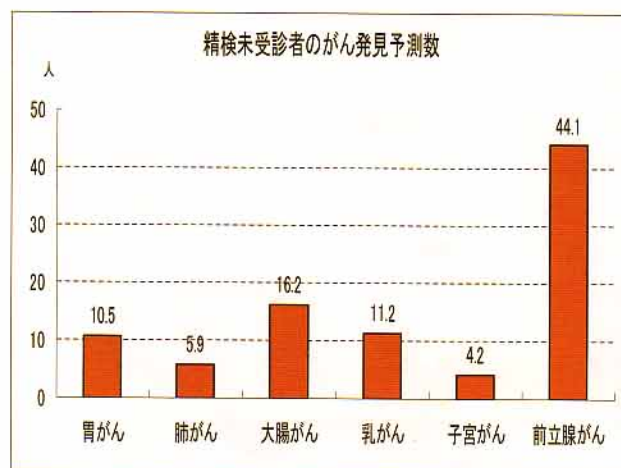
平成17年度 住民がん検診実績

	受診者	要精密検査		精検受診		精密検査結果								未受診 ・ 未回答
	人数 A	人数 B	率 C=B/A	人数 D	率 E=D/B	発見がん					その他の 疾患	異常 なし		
						早期	進行	不明	計 F	率 G=F/A			陽性 的中率 H=F/D	
胃がん	31,179	3,190	10.2	2,626	82.3	29	19	1	49	0.16	1.9	1,983	594	564
肺がん	57,481	2,407	4.2	2,043	84.9	14	5	14	33	0.06	1.6	1,363	647	364
大腸がん	39,675	2,464	6.2	1,778	72.2	21	11	10	42	0.11	2.4	1,044	692	686
乳がん	17,017	1,174	6.9	962	81.9	27	10	14	51	0.30	5.3	469	446	212
子宮がん	30,158	111	0.4	91	82.0	16	1	2	19	0.06	20.9	50	22	20
前立腺がん	7,179	362	5.0	201	55.5	39	1	15	55	0.77	27.4	93	53	161



平成17年度の精検未受診者は、全がん検診で2,007人と要精検者の20.7%を占めています。中でも「大腸がん」の精検未受診者が最も多く686人と27.8%にもなっています。次いで胃がん564人、肺がん364人とつづいています。この精密検査未受診者の方全員が精密検査を受けられたと仮定し、それぞれのがん検診の陽性的中率から「予測発見がん数」を求めてみると、前立腺がん:44人、大腸がん:16人、乳がん:11人、胃がん:10人、子宮がん:4人という「がん発見」の予測数が出てきます。

陽性的中率から求めた精検未受診者の発見がん予測人数



せっかく「がん検診」を受けていただいた。結果「要精密検査」となった。しかし、病院に行って精密検査を受けるのはイヤだ。結果が怖い等々いろんな思いから精密検査を受診されない。そんな方の中から「がん」が診つかる可能性は高くなっています。**あなたの身体の中に小さな「がん」が潜んでいるかもしれません。**あるいは、「がん」以外の治療しなければならない病気があるかもしれません。

要精密検査となった方は、ご自身とご家族の安心のために病院に足を運んで必ず精密検査を受けて下さい。



結核フォーラムinえひめ

結核についての現状や予防法を広く知っていただくために開催しております「結核フォーラムinえひめ」を、国立病院機構愛媛病院との共催により平成19年2月17日(土)に行いました。

今回のフォーラムのテーマは、「BCG接種」です。講師に財団法人結核予防会結核研究所名誉所長 森 亨先生を迎え、「これからの結核予防とBCG接種について」と題して講演していただきました。また、国立病院機構愛媛病院の阿部聖裕統括診療部長をコーディネーターに、結核予防法改正にともない接種方法が見直されたBCG接種の現状と問題点についてシンポジウムを行いました。愛媛県小児科医会理事 中 眞一氏、愛媛県松山地方局健康増進課長 廣瀬浩美氏、松山市保健所地域保健課 山岡美佐氏に出席していただき、医師・行政・地域それぞれの立場から見たBCG接種について活発な意見交換が行われました。

当日は悪天候にもかかわらずたくさんの方々に足を運んでいただき、誠にありがとうございました。



平成18年度 愛媛県地域保健研究集会

保健福祉関係の日頃の活動の発表の場である「愛媛県地域保健研究集会」(主催 愛媛県健康増進センター)が平成19年2月23日(金)に開催されました。



今年度は「共に語ろう 地域保健の未来」をテーマに、平成19年度に愛媛県で開催される第66回日本公衆衛生学会総会に向けて広範囲な分野からの応募があり、当協会からも3名の職員が発表を行いました。

- ・「当協会での“介護予防のための生活機能に関する評価”における報告」 (事業部 和田義史)
- ・「愛媛県における子宮頸がん検診の現状と課題」 (保健部 深田千尋)
- ・「移動型CT装置による肺がん検診の検討」 (事業部 大野智博)

第3回 女性のための医学講演会

女性の方を対象に行っている「女性のための医学講演会」を平成19年3月3日(土)に開催しました。

3回目となる今回は「女性の健康を守る」をテーマに、まり子レディースクリニックの矢野まり子先生に子宮がんを中心としたご講演をしていただきました。子宮がん検診の重要性や、がんの発生要因、検査方法などについて、やさしく分かりやすい言葉でお話いただき、参加した方々は熱心に聞き入っていました。



わたしの街から

今治市菊間支所 健康福祉課
志賀京子さん・渡邊美紀さん・横田委久江さん



今治市菊間町の紹介

菊間町は、今治市の西の端に位置し、東・西・南の三方を高縄山地に囲まれ、北は瀬戸内海いつき灘に面しています。温暖寡雨な気象条件と丘陵の地形は温州みかんなどかんきつ類の生産に適し、地場産業の「菊間瓦」は、700年の伝統が有り、愛媛県伝統特産品にも指定されています。

平成17年1月、今治市及び越智郡11町村（朝倉村、玉川町、波方町、大西町、菊間町、吉海町、宮窪町、伯方町、上浦町、大三島町、関前村）との合併により、人口約18万人の今治市が誕生しました。



菊間瓦



菊間祭り

加茂神社の馬場をお供馬が走り込み、伊勢音頭の掛け声にお神輿や牛鬼が練り歩く菊間祭り。また、三継ぎ獅子などの獅子舞も行われ大変賑やかなお祭りで、県内外からたくさんのお客さんが訪れます。当日は、フォトコンテストなどもあり、腕自慢のカメラマンが技を競います。

厄除け大祭

弘法大師が創設した遍照院で、厄除け大祭は毎年2月の節分の日に行われます。県内外から厄年を迎えた大勢の人が訪れ、厄除けを祈願。山門の入口でわら草履に履き替えた老若男女たちが、参拝祈願を終えるとこれを脱ぎ、護摩を焚いて焼き、厄除けを祈願するのが習慣となっています。

また、午前10時と午後2時に、61歳の男女による餅まき、豆まきが行われます。鬼瓦で有名な町ならではの「福は内、鬼も内」※という掛け声が響き、その後、41歳の厄男にかつがれた鬼瓦神輿が町に練り出していき、町は歓喜と熱気で盛り上がります。

※戦後間もない頃、来町した俳優の徳川夢声氏が、「何か掛け声を出しながらまくと良い」というアドバイスをくれて以来、行っているものです。



遍照院

健康づくりへの取り組み

健康づくり計画の策定（現在策定中）

市民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という意識を持ち、主体的に取り組むことができるような支援をするために、健康づくりに取り組む関係団体と一緒に、実践できる具体的な健康づくりについて検討を重ねてきました。平成19年3月には計画が完成し、それに基づく健康づくりを行っていく予定になっています。

食生活改善推進員研修

今治市食生活改善推進協議会会員や一般住民を対象にした、健康づくりのための3本柱である栄養・運動・休養の食生活改善と運動を中心に共同学習を行い、学んだ知識（バランスのよい食生活や生活習慣の改善）を家族や身近にいる方に広めたり、その担い手としての活躍ができるような養成をしています。



健康診査・健診結果説明会

生活習慣病予防の一環として、基本健康診査を町内の主要施設や公民館等で実施しています。受診後は、結果説明会を行って保健師・栄養士による生活栄養指導を基に生活習慣の改善に努めています。

健康教室

市の健診を受け事後指導が必要な方に対し、運動や栄養などの健康教育により、生活習慣の改善ができるよう支援しています。参加者からは、「意識が変わった。参加してよかった。」などの声がたくさん上がり、教室の終了後も自主グループとして活動を行っています。



健康相談

地区の公民館や集会所で行う健康相談以外に、病態に応じた個別の栄養相談も行っています。高血圧・糖尿病・腎臓病・高脂血症の方を対象にし、管理栄養士が食事の取り方や生活内容について丁寧に指導を行っています。

えひめ健康だより No.23 平成19年3月15日 編集・発行(財)愛媛県総合保健協会